

4月報(2024年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【主のご復活おめでとうございます】



復活とは、日常の中で虚無に退却することなく、希望に生きる事！

ご復活おめでとうございます！（Fr. 金）

いざよろこべ（おりかえし）

いざいざ喜べ わが救い主は

死のくるしみに勝ち み墓を開きて甦がえりたり

1. この世に降りて 罪びとのため

犠牲となりて 苦しみ給いき

5. み傷を見ずとも 信ずるものは

常世のいのちに 生きるとう宣う



【2024. 3. 20 星野司祭叙階式】

伊藤 望



星野新司祭誕生おめでとうございます

広島教区にまた新しい司祭が神様によって贈られました。教区をあげて喜びたいと思います。どうぞこれから星野新司祭が私たちに導いてくださいますように。また神の恵みによって星野神父様が私たちのために元気に働いてくださいますように。福山教会はこの叙階式に参列し、祝うために責任チーム平和担当の尽力によって暁の星のバスをチャーターし尾道教会員を含

め19名で式に参列しました。大相撲の春場所は荒れるとされているそうですがこの日の天候も大荒れでこの時期にしては珍しく雪が降り、中国山地も白くなっているところもありました。その影響で山陽道は福山西インターから入れず、途中本郷から入りましたが、広島では司教館横付けしてもらい、昼食の弁当を食べても1時半からの叙階式には十分間に合いました。大内さん曰く「今日はお昼の用意もしなく



ていいし、皆で同じ弁当を食べるのもいいね。」

懐かしい神父様方の顔がたくさん見えました。その中でも深堀神父様との出会いはこの日の大きなプレゼントでした。神父様は眉毛も真っ白になっておられました。福山教会員一人ひとりのことをはっきりと覚えておられることに感謝しました。「深堀師 傘を片手に 杖代わり」これを言って大笑いしました。



叙階式は1時半から始まりました。この度司祭叙階を受ける方はパドアのアントニオ星野倫淳（ともひろ）さん。1978年1月26日生まれ。さいたま教区伊勢崎教会出身。トラピストでも修行されました。白浜司教様司式。お祝いで「カトリックの囲いの中にいる羊だけでなく囲いの外にいる羊のためにもイエス・キリストの御心が届くように働いてください。」という言葉が伝えられました。それに対し、星野新司祭はお礼の言葉で「叙階カードに『良い羊飼いは羊のために命を捨てる』を選びました。わたし一人が司祭になっておめでとうと言われるのではなく、神が働き、神が司祭を贈ってくださり司祭職そのものが、皆さんがおめでとうと思われるように働きたい。」と感謝の言葉を述べられました。こぼれ話ですが叙階式当日の朝食時、鄭（チョン）神学生が「式の後サプライズが用意されているそうですよ」と言った時、白浜司教様が半分冗談で「星野さんの叙階されることがサプライズ」と言われたそうです。

祝賀会にはバスの出発時刻の関係で出ませんでした。フレデリック神父様とミカエル金神父様がわざわざ一言ご挨拶に来てくださいました。帰りは順調に山陽道をひた走り5時50分教会着、解散しました。バラバラに参加するより、一台のバスでともに移動し、道中隣近所とあれこれ話をする中にも聖霊の働きがありました。裏方としてお世話してくださった方々に感謝です。

星野神父様、福山教会でごミサの中で出会えることを楽しみにしています。



【旅立ちのミサ】

新しい世界へ旅立つ子ども達に神父様からの祝福と皆さんからのお祈りを頂きました。



【旅たちの日に寄せて】

佐藤 紀子

昔、一冊の本を読んだことがある。匿名だったがある男性の体験談だった。端折って紹介したいと思う。その男の人は、職業について自身の経験から赤裸々に綴っていた。

仕事は技師、毎日なんとなく仕事をしていた。けれど病院の中での仕事は特殊な機械を操り人の内臓や病気発見の為の医者の手助けをしていた。そこに、彼のおごりが生じていた。その人曰く、大病院に出入りする自分、決して専属ではなくっても世間では医者と懇意にしていると思われる自分、まるで一流の人間になれたかの様な錯覚があったのだそうだ。日々、忙しく慌ただしく過ぎていく中で、傲慢さを身につけた男の姿があった。

ある日、足早に通った道に置かれたゴミステーションに目がとまる。そこにトラック一台作業員2人組が泥まみれになって精一杯ゴミを収集していた。

彼は少し誇らしかったが何かが心に引っかかった。

私は、今どんな人間だろうか？ 人を見下している僕は、人間相手だけれど仕事柄、人の糞尿に手がドロドロになるようなそんなこともよく経験した。

この作業員の人は僕よりかはまだましなものを扱って仕事をしている、と。そんな自分が恥ずかしく心が動揺をした。自分が正しければこの人達は私よりかはずっと汚れない仕事をしている。心のどこかで汚いものに触れても本当の姿を見ようとせず自分より下をつくっていた。そんな思いになって仕事についてから今までの事が胸の中で湧き起こり、その衝動で気付いた事があった。

仕事(職業)に貴賤はないのだとよく言われることだが、自分を通しはつきりと自覚が出来た瞬間だったと告白している。何かの啓示だろうか？と締め括りされていた。どうしようもない人間の姿(自分)にあっけにとられた瞬間だったらしい。その人たちを下に見ていた、人間の心の根っこにある差別の意識を見たと言うのだ。

この話を讀んだ時、私は人間の中にある良心を見た気がしました。

仕事ってなんだろう？ただ稼ぐだけの自分自身を満足させる月々の連続性だけの習慣だろうか？

私は新しい旅立ちをされる方に、もっと根源的なもの、どんなことにぶちあたっても新しくなる自分を恥じないで欲しい、そう思います。

いろんな人のストーリーがあります。身をもって知ったことは、その人の実になると思います。チャレンジし負けることも覚えてほしい、そう思います。

【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～マタイ福音書 10 章～



『その家に入ったら、「平和があるように」と挨拶しなさい』

今日は、このイエスの言葉を考えました。

昨日分かち合った弟子たちの召し出しと、私たちにも与えられた使命に続く言葉です。私たちは、「平和の使徒」となるように神さまから召されています。平和は、今、世界中で叫ばれています。人間の犯した罪によって、平和な世界が壊されようとしています。すべての人が共に平和を祈っています。神さまは、それをじっと見つめているように思われます。

1 日でも早く、平和な世界の実現を祈る私たちですが、神さまは、「その時」を待っているように思われます。私たちは、一生懸命祈ります。ただ、その祈りは、私たちの中で留まってはいないでしょうか。平和のために祈りながら、自分の回りの人と平和を保てないなら、本当の平和を祈ることにはなりません。神さまは、私たちすべてを天国に導くために十字架の苦しみを受け、栄光のうちに復活されました。その神さまが、今苦しんでいる自分の子どもたちを見捨てるはずはありません。

私たちひとりひとりの日々の改心が必要です。世界の平和を祈ると共に、私たちの身の回りから、「愛と平和を」実現しましょう。それが集まってこそ、世界の平和に繋がるのです。

【南相馬便り 2024 年 3 月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子



13 回目の 3 月が巡ってきました。

私が、南相馬に移住した年に、広大な菜の花畑が美しく、感動しました。でもそのわけを聞いて喜んでいいのやら複雑な気持ちになったことを覚えています。

福島第一原発事故によって、放射線に汚染された土地は、もう農地として使い物にならないものになってしまいました。この

南相馬にチェルノブイリの人から知恵をいただきました。菜の花は、葉や茎には放射線が含まれるが、種には放射線が入らないから、菜種油を作るといいことを教えてくださったそうです。



それで、南相馬の浜通りには菜の花がたくさん植えられたのだそうです。山は除染されていないので、林業、山菜、キノコ類を生業にしておられた方々は、いまだに元の生活に戻れていません。キノコは山で採らなくても、ハウスで

おがくずのような土で栽培できるようですが、本当のキノコの味は、原木栽培が良いとのこと。その原木が放射線に汚染されているために、県外から原木を仕入れてキノコ栽培をしておられるとのこと。

学校教育にも大きな影響を与え、多くの地域で、数校が合併して新しい学校を開校したり、新しい校舎、校歌を作って生徒が帰ってくるのを待っています。小中一貫校になるところもあります。新しい学校への希望はあるとしても、子供たちが自分たちの懐かしい場所から慣れない所へ



移転すること、母校がなくなる寂しさなど、心情的に複雑な問題があります。

震災遺構になっているこの写真の請戸小学校は、「浪江創生小学校・中学校」として2018年に開校しました。昨年2023年3月の卒業生は、小学校5名、中学校3名で、4月の入学生は、小学校7名、中学校9名。少しずつ増えてはいるようです。



津波で幼い子供を失った家族が、海岸近くの丘に子ども地蔵を建立して供養しておられるのを見ると、胸がつぶれる思いです。親御さんは、同年齢のこどもを見るたびに、「あの子ども、こんなに大きく成長しているはず」と、一日も忘れることのない我が子の成長した姿を想像して、涙をこらえておられることでしょう。私たちには何もできませんが、被災者の思いを神様に届けて、心の平安を祈ります



(浪江の震災遺構：請戸小学校の写真)



(小高の浦尻海岸近くのお地蔵さ)

【帰天のお知らせ】

Sr. マリー春日撮子様(85歳)

Sr. マリーモニカ梶幸子(95歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【4月・5月の行事予定】

4月		5月	
7(日)	復活節第2主日 (神のいつくしみの主日) 初聖体	3(金)	乙女峠祭り 憲法記念日
8(月)	神のお告げ	5(日)	復活節第6主日 世界広報の日(献金) こどもの日
14(日)	復活節第3主日	12(日)	主の昇天
21(日)	復活節第4主日 世界召命祈願の日	14(火)	聖マチア使徒
27(土)	広島地区召命祈りの集い	19(日)	聖霊降臨の主日 信徒総会
28(日)	復活節第5主日 14時 墓地ミサ(雨天の場合 5/5)	20(月)	教会の母聖マリア
		26(日)	三位一体の主日



【編集後記】

ご復活おめでとうございます。女性会の方々、復活たまごおいしく頂きました。今年は聖木曜日から聖土曜の復活祭までミサに与ることができました。それだけで心が満たされました。

さあて、今年もイエス様を信頼しつつ日々祈りと共に歩んでいこう♥ T.N